

家庭学習の手引き

～家庭を学びの場に～

(保護者の皆様へ)



令和6年度

羽曳野市立河原城中学校

保護者の皆様へ

～「確かな学力」の土台は、基本的な生活習慣の確立と家庭内ルールから～

「確かな学力」の育成は、学校の果たすべき最も重要な役割です。そのために、河原城中学校では、授業改善や学力向上への研究会など、様々な取り組みが行われています。

一方、教育の原点は「家庭」にあります。子どもの教育は家庭から始まり、子どもたちは、家庭との温かい関わりや体験を通して多くのことを学び、たくましく成長します。

家庭学習の習慣化を図るには、「早寝早起きをする」「朝食を毎日食べる」「スマートフォンの使用のルール」などの基本的な生活習慣の確立と家庭内のルール作りが大切であると考えています。全国学力・学習状況調査における学力調査と質問紙調査のクロス集計（羽曳野市全体）から、次のような傾向が見られたことが報告されています。

- ① 基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）が定着している児童生徒の平均正答率は高い傾向にあります。
- ② 家庭学習習慣が定着している児童生徒の平均正答率は高い傾向にあります。
（家庭での学習時間は正答率と比例している）
- ③ 読書やインターネットを活用した学習などに取り組んでいる児童生徒の平均正答率は高い傾向にあります。しかし、「長時間」になると、かえって平均正答率は低くなっています。時間のつかい方の「バランス」が影響するのではとも考えられます。

「令和5年度全国学力・学習状況調査結果（概要）」羽曳野市ホームページより

私たちは、家庭における基本的な生活習慣の確立と家庭内ルールを土台に、豊かな自然体験や社会体験を通じて、子どもたちに、学ぶことの意味や楽しさ、人と関わることの素晴らしさに気づかせ、自分に自信と誇りをもってほしいと思っています。また、学んだことをぜひ家庭や地域での生活に生かしてほしいと願っております。

このように、子どもたちに「確かな学力」を育成するためには、学校と家庭が連携協力して、それぞれの責任をしっかりと果たすことが必要となります。ご家庭の皆様にも、以上の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いし、子どもたちの家庭学習がさらに充実するように、この冊子をご活用いただければ幸いです。

《目次》

1. 保護者の皆様へ
2. 家庭学習について
3. 中1・中2の家庭学習
4. 中3の家庭学習
5. タブレットの活用
6. 高校受験のシステム（公立）
7. 高校入試における外部検定の活用

家庭学習について～家庭を学びの環境に～

□ 生活にリズムを！

「早寝早起きをする」「朝食をきちんと食べる」など、規則正しい生活リズムが日々の子どもの生活を充実させ、家庭学習の習慣化につながります。

□ 「がんばり」を見逃さずに！

子どもの学習に目を向け、必要な声かけや見届け（点検）を行いましょう。結果にとらわれず、粘り強い努力を認め本気でほめましょう。

□ 学習時間を決めて！

最初は短く、だんだん長く。目安は10分～15分×学年です（中学校1年生は7年生として計算します）。「テレビを見ながら」「音楽を聴きながら」「スマホを触りながら」といった「ながら勉強」はやめさせましょう。

□ 読書に親しむ！

まずは家庭での読書の声かけをしましょう。学校の図書室や地域の図書館での本との出会いの楽しさを感じさせましょう。河原城中学校では「朝読書」に毎日取り組んでいます。興味のある本（朝読書ではマンガや雑誌以外の本）を子どもと探してみてください。

□ 情報（インターネット）との正しい付き合い方を！

役立つ道具ですが、同時に危険性も持ち合わせています。タブレットやスマホを使わせる場合は、事前にルールを決め、ルールを守り、家族の目の届くところで使うように声かけをしましょう。

□ 先生との連絡を！

わからないこと、困ったことは、遠慮せずに先生に相談しましょう。子どもたちのことを、先生と一緒に考えてみましょう。

□ 学校からの発信をキャッチ！

学校からの情報はプリントやテトル、クラスルーム（生徒用タブレット内アプリ）で発信されます。特に、クラスルームには各教科の連絡等が投稿されることがあります。毎日のタブレットの持ち帰りの確認と、子どもにクラスルームチェックの声かけをお願いします。

中学校 1・2 年生

→計画的・継続的な学びを進めよう

学習時間の目安 105分～120分

「育ち」や「学び」の特徴

「思春期」（大人への入り口）といわれる時期です。

- 心と体の成長がアンバランスになりがちで、不安や悩みを抱えやすくなります。
- 家族と依存したいという気持ちと、家族から自立したいという気持ちが混在します。
- 矛盾する大人の態度に反抗的になります。また、仲間や友だちの影響を強く受けます。
- 他人から見た自分を意識し、比べて落ち込んだり、無理に合わせようとしたりします。
- 中学校生活を有意義に過ごすために、部活動との両立が大切です。

学習内容の特色（学校で）

授業の内容及び大きく変わります。

- 教科ごとに先生が変わることに加え、小学校で学習する内容に比べ、中学校の内容は、質・量ともに、ずいぶん違ったものになります。

自分から課題を見つける家庭学習に変化していきます。

- 最初は宿題から、やがて自分自身で勉強方法や内容を工夫して、何をするか自分で考え、決められるようになることが大切です。

家庭学習 3か条



その
1

予習で工夫を！ 復習に重点を！

あらかじめ自分で調べたり考えたりして、授業に臨めば、課題を見つける力もつきます。また、その日のうちに、教科書やノート、プリントを使って学習のポイントを整理し、思い出すように働きかけましょう。「継続」は「習慣」となります。

その
2

タブレットの有効活用を！

タブレットで、家庭学習できるアプリや、WEB上の自ら学べるコンテンツを活用することができます。また、疑問に思ったことを、すぐに調べて解決することができます。

その
3

「急がば回れ」の気持ちで！

問題に取り組んでいて分からない時は、分かるところまで戻ってやり直すとともに、間違ったところは、必ず見直すことが大切です。先生に相談することもよいでしょう。学習課題をやりきったという達成感と自信が、さらなるやる気を起こします。

- 「毎日、何時間勉強する」「毎日、教科書（問題集）を何ページする」など、具体的に目標を立てよう。
- 毎日決まった場所で、決まった時間に勉強しよう。
- ドリルパーク（タブレット用家庭学習アプリ）を活用して基礎基本の定着をはかろう。

国語

- はっきりと声に出して教科書を読みましょう。繰り返して読むことが大切です。
- 漢字は何回も書いて、確実に覚えるようにしましょう。
- 意味の分からない語句は、国語辞典やタブレットで調べて確かめておきましょう。

社会

- 新聞やテレビで話題になっていることを、自分でも考えてみる習慣をつけましょう。
- 教科書を繰り返し読んで、内容の理解に努めるようにしましょう。
- タブレットを活用してたくさんの問題にチャレンジして知識を蓄えましょう。

数学

- その日の授業で取り組んだ計算問題を、繰り返しやり直しましょう。
- ワークは少なくとも2回は解いてみましょう。
- わからない問題は答えを写すのではなく、理解するまで解説を読み込みましょう。

理科

- 図やグラフなどの資料を見ながら、なぜそうなるのかを考えるようにしましょう。
- その日の授業で学習したことをまとめたり整理したりするなど、ノート作りを工夫しましょう。
- ワークを繰り返し解きましょう。

英語

- 新出語（句）と基本文は、声に出しながら繰り返し書きましょう。
- 教科書で習った本文は、まず、声に出して読んでみましょう。読めたら、その意味を日本語で書いて、本文を見ながら英文が書けるまで練習しましょう。

ドリルパークを活用しましょう

羽曳野市で貸与されているタブレットにはドリルパークというアプリが導入されています。

小学校1年生から中学校3年生の問題に取り組むことができます。どんな勉強をしてよいかわからない場合は、まずはドリルパークに取り組んでみてください。



「Benesse 教育情報 ONLINE」より引用

中学校 3 年生

→励まし、自分の目標を明確にもたせる

学習時間の目安 2 時間～3 時間

「育ち」や「学び」の特徴

まさに、人生の節目の時期です。

- 自らの進学や就職などの進路決定をする時がだんだん近づいてきます。
- 「やらなくては」とわかっていながら、思うようにならない自分に苛立ちを覚えます。
- 気持ちが不安定になり、大人がかける言葉に敏感になり、ときには反抗することがあります。

進路に関する情報が不足していると、一層不安が募ります。

- 本人も保護者も、学校（先生）などから正しい進路情報を得ましょう。
- 正しい進路情報をもとにして、家族で進路についてよく話し合しましょう。
- 将来を見据えた目標をもつことが、本人のやる気にもつながります。

学習内容の特色（学校で）

- 目先の進路だけを意識すると対策的な学習になりがちです。まず、基礎・基本を確実に身につける総復習が必要です。
- 3 年生の学習内容は、1・2 年生の学習内容とかけ離れて難しいわけではありませんが、3 年生の授業の復習と1・2 年生の内容の復習をする必要があります。

**中学 3 年生になったら、
家族みんなで生活習慣の点検を！**



☆朝食は必ずとる！

大切なエネルギー源で脳の働きにも関係します。

☆睡眠時間はたっぷり！

睡眠不足では疲れがとれません。夜更かしはやめ、明日の生活にベストコンディションで臨めるようにアドバイスしましょう。

☆計画的に時間を使う！

特に部活動を引退後は、帰宅してから夕食までの時間を有効に活用して生活リズムを整えましょう。テレビやスマホなどの視聴は、時間を決めるよう働きかけましょう。分担した家事も続けましょう。

☆あいさつや会話を大切に！

「おはよう」「行ってらっしゃい」「おかえり」の挨拶はもちろん、楽しい会話で、家族の絆を強く感じ取ることができます。

ワンポイントアドバイス

中学校 3 年生

～家庭学習 こんな内容・方法で～

- 得意な教科は、問題集などでどんどん進みましょう。
- 苦手な教科は、分かるところまでさかのぼってやってみよう。
- 先生から、自分にあった学習方法をアドバイスしてもらいましょう。

ノート・教科書を見て、その日の授業をふりかえりましょう。

- 詳しく知りたいことや、わかりにくかったことは、教科書や参考書で確かめましょう。
- 国語の漢字や言葉、英語の単語などは、繰り返し書いて覚えましょう。
- 数学の計算や文章題は、同じ問題や似た問題を問題集で解いてみましょう。
- 社会や理科では、大切なことをわかりやすくまとめておきましょう。

テストの日をめやすにして、スケジュール管理をしましょう。

- 定期テストや単元テストなど、いつ・何があるかをカレンダーに書き込んでおきましょう。
- テスト範囲とテスト日までの日数を考えて、その日に何を勉強するか書き込んでおきましょう。
- スケジュールをもとに計画的に学習に取り組めたら、カレンダーにチェックを入れましょう。

夏休みは・・・

- 1・2年生までの総復習を集中して続ける絶好の機会です。
- 問題集などのページ数と休みの残りの日数から、1日に学習する時間や量を決めて進みます。
- 部活動を引退したら、気持ちを切り替えて勉強に一層力を入れましょう。
- 気になる高校のオープンキャンパスに参加してみましょう。

冬休みは・・・

- 進路希望が明確になります。進路を見据えて、ラストスパートです。出題傾向を調べ、進路希望に合った問題集・過去問などに挑戦しましょう。

ご家庭で・・・

中3の受験勉強が本格化するときに、一番大切なのが、時間の有効活用です。スマホやゲームに費やしている時間を、しっかり話し合って短縮し、時間を生み出すことです。子どもにだけ「見るな！」などと言って、家族が野放図に見ていてはダメです。子どもはちゃんと見えています。進学や就職の難関を突破する重要な年です。家族も協力し、努力と我慢が必要な年にしましょう。

タブレットを活用しましょう

一人一台端末をはじめとする ICT の活用により、画像や動画を利用した分かりやすい授業を通じた学習意欲の向上、生徒の学習の習熟度に応じたデジタル教材による知識・理解の定着、タブレットを用いた発表・話し合いによる思考力や表現力の向上を図ります。

ご家庭でも、課題への取り組みや自主学习でタブレットを活用していただけたらと思います。

クラスルームを確認しましょう（毎日）

タブレットにはクラスルームというアプリが入っています。「所属クラス」「各教科」「クラブ」「委員会」など、生徒に関係のあるクラスに参加しています。

クラスルームは、時間割の確認、授業の持ち物の連絡、課題への取り組み、授業ライブ配信等に使われます。



毎日、家で必ずクラスルームを見て、明日の時間割や宿題等を確認し、忘れ物がないように声をかけてください。また、教科によっては、テストの結果をクラスルームに返却する場合があります。保護者の方も、定期的にクラスルームを確認してください。

ドリルパークに取り組みましょう

ドリルパークは、個々に合ったレベル・ペースで、知識の確かな定着や主体的に個人で学ぶ姿勢を支援してくれる個別学習ドリルです。知識がしっかりと身につく、豊富な問題数を収録しています。（問題数は小学生問題が約 9000 問、中学生問題が約 7500 問収録 令和 6 年 4 月現在）

また、中学校では、ドリルパークに意欲的に取り組んだ生徒を表彰する「D-1（ディーワン）グランプリ」を定期的実施しています。この「D-1 グランプリ」によって子どもたちがドリルパークに取り組むきっかけとなればと考えています。

このドリルパークは、隙間時間でも取り組むことができるアプリとなっています。ご家庭でも、空いた時間にドリルパークに取り組むように声かけをしていただけたらと思います。

ご家庭でのルールづくりをお願いします

学校でも家庭でも端末は学習に使う。

→タブレットは、学校や家庭での学習をよりよいものにするために配布されています。学習以外で使うことはやめましょう。

時間や学習内容を決めて使う。

→例えば、「寝る 1 時間前には使用を控える」など、学習計画を立てた上で活用しましょう。

長時間にわたって継続して画面を見ない。

→30 分に 1 回は、20 秒以上、画面から目を離し、遠くを見ましょう。

まなびポケットから入れるコンテンツサイト

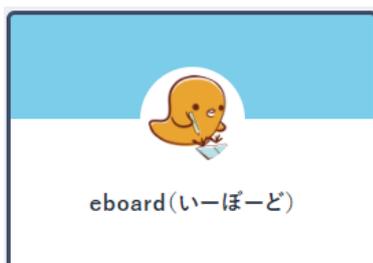
タブレットの「まなびポケット」から次の学習コンテンツサイトに取り組むことができます。

(1) NHK for school



NHK が制作する学校教育向けの「ばんぐみ」を2000本以上、さらに学習のエッセンスを簡潔にまとめた「クリップ」を7000本以上配信しています。動画だけでなく、「教材・資料」などのコンテンツもあわせて提供しています。

(2) eboard



eboard の映像授業は、平均7~8分と短く、内容に集中できる講師の顔が見えないスタイルとなっています。学校や塾の授業よりも、くだけた口調で親しみやすく、1つ1つていねいに解説していきます。

映像授業を見た後は、デジタルドリルで確認。基礎レベルからの問題で、1つずつ確認できます。ドリルを解いていて、わからない時だけ動画にもどれるのも eboard の特徴です。動画→ドリル、ドリル→動画のどちらの順番でも、勉強を進められます。

その他 学習コンテンツサイト (紹介)

(1) PhET



海外の大学のプロジェクトで理科系科目のシミュレーション教材が公開されており、無料で使うことができます。理科だけでなく、数学のシミュレーション教材もあります。WEB サイトの基本言語は英語ですが、シミュレーターの多くが翻訳対応されています。

(2) STEAM Library



STEAM ライブラリーに掲載されているコンテンツは、「こうしなければならない」という指示書ではありません。参考となるよう、一定の「ガイド」はついていますが、動画やワークシート、参考資料などを単体で取り扱ったり、資料集代わりに使っていただくことも可能です。学習者自身が、年齢を問わず自身の「ワクワク」を探究するきっかけとして活用いただくこともできます。

高校受験のシステム（公立）

高校受験（公立）は中学3年生からではなく、1年生から3年間の成績が大きく影響します。（ここでは、大阪府公立高校〔一般選抜〕について確認します。）

公立高校（一般選抜）の合格者は調査書と学力検査（受験当日）の点数の合計900点と自己申告書で決定します。〔以下の内容は中学3年生で実施される進路説明会の資料から一部抜粋しています〕

(1) 調査書

- 1 評価対象学年を全学年とし、3年生の評定を重く評価する。→全学年の評定が調査書に記載
全学年の評定を活用 ≪3年：2年：1年 = 3：1：1≫
※中学3年生の評定の重みが一番重いが、中学1年生2年生だけで調査書の4割が決まる。
- 2 記載項目は、「各教科の学習の記録」（評定）及び「活動/行動の記録」とする。
活動/行動の記録・・・中学校での教育活動全般における活動及び行動の記録が、具体的事実を示して記載されます。
- 3 学力検査の成績と調査書の評定の比率については、3：7～7：3の5つのパターンがある。
- 4 全9教科の評定を同等に扱う。

(2) 学力検査（5教科）

<入学者選抜における学力検査問題の種類及び特徴>

〔国 語〕

種類	特 徴	一般選抜	
		検査時間	配 点
A (基礎的問題)	基礎的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題、国語に関する基礎的な知識を問う問題を中心に出題する。	50分	90点
B (標準的問題)	基礎的・標準的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題を中心に、問われたことについて適切に表現する力を問う問題をあわせて出題する。	50分	90点
C (発展的問題)	標準的・発展的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題とともに、問われたことについて適切に表現する力を問う問題を中心に出題する。	50分	90点

〔数 学〕

種類	特 徴	一般選抜	
		検査時間	配 点
A (基礎的問題)	基礎的な計算問題を出題するとともに、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用（データの活用）」の基礎的な事項についての理解を問う問題を中心に出題する。	50分	90点
B (標準的問題)	「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用（データの活用）」の基礎的・標準的な事項についての理解を問う問題を中心に出題する。	50分	90点
C (発展的問題)	「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用（データの活用）」の標準的・発展的な事項について、数学的に処理し判断する力を問う問題を中心に出題する。	60分	90点

〔英 語〕

種類	特 徴	一般選抜	
		検査時間	配 点
A (基礎的問題)	〔筆答〕 基礎的な語彙・文法の理解を問う問題とともに、基礎的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出题する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出题する。	55分 〔筆答 40分 リスニング 15分〕	90点
B (標準的問題)	〔筆答〕 基礎的な語彙・文法についての理解を問うたうえで、基礎的・標準的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出题する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出题する。	55分 〔筆答 40分 リスニング 15分〕	90点
C (発展的問題)	〔筆答〕 標準的・発展的な内容の英文の中から、話題や論理の流れに沿って必要な情報を素早く読み取る力を問う問題とともに、一定量以上のまとまりのある内容を英文で適切に表現する力を問う問題を中心に出题する。 ※問題文は、指示文を含め、すべて英語で構成する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題とともに、「読む・聞く・書く」技能を統合的に活用する力を問う問題を出题する。	55分 〔筆答 30分 リスニング 25分〕	90点

*A、B問題のリスニングテストでは、同一問題を使用し、配点は約20%（5分の1）とします。

*C問題のリスニングテストでは、A、B問題と異なる問題を使用し、配点は約33%（3分の1）とします。

〔社会・理科〕

教 科	一般選抜	
	検査時間	配 点
社 会	40分	90点
理 科	40分	90点

(3) 自己申告書

- 1 受験生全員が出願時に提出する。（日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜を除く。）
- 2 毎年、府教育委員会がテーマを提示する。

令和5年度入試のテーマ

「あなたは、中学校等の生活（あるいはこれまでの人生）でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いますか。できるだけ具体的に記述してください。」

- 3 一般選抜（通信制の課程を除く。）及び実技検査を実施する特別選抜において、ボーダーゾーン内の選抜資料とする。
- 4 面接を実施する特別選抜において、選抜資料及び面接の参考資料とする。
- 5 一般選抜（通信制の課程）、二次選抜及びその他の入学者選抜においては、面接の参考資料とする。

※各学校のアドミッションポリシー（求める生徒像、期待する生徒の姿）をよく読んで、自己申告書を書きます。

(4) 合否の決定方法〔一般選抜〕

<Step 1>

学力検査

教科	国語	社会	数学	理科	英語	学力検査の成績 (①)
一般選抜	90点	90点	90点	90点	90点	450点

調査書

<9教科の評定 = 各教科5段階評価>

一般選抜：3学年の評定×6倍+2学年の評定×2倍+1学年の評定×2倍=50点

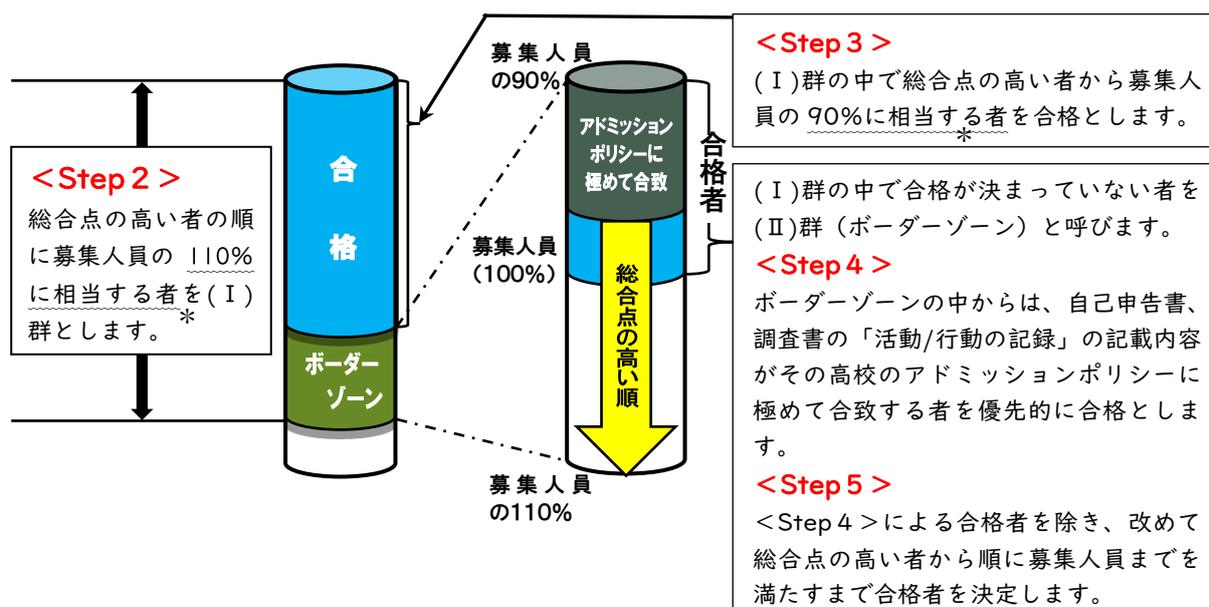
※3年生で評定が「1」上がると、受験では「6点」 1年生2年生で評定が「1」上がると、受験では「2点」調査書の点数が上がる(タイプⅢ)

教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	調査書の成績 (②)
一般選抜	50点	450点								

総合点

各高等学校が決定したタイプにより、**学力検査の成績 (①)**と**調査書の評定 (②)**にそれぞれ倍率をかけて合計し、**総合点③**を算出する。

倍率のタイプ	学力：調査書の比	学力検査の成績 (①) にかける倍率	調査書の評定 (②) にかける倍率	一般選抜の配点		総合点③ ①+②
				学力検査の満点①	調査書の満点②	
I	7:3	1.4倍	0.6倍	630点	270点	900点
II	6:4	1.2倍	0.8倍	540点	360点	
III	5:5	1.0倍	1.0倍	450点	450点	
IV	4:6	0.8倍	1.2倍	360点	540点	
V	3:7	0.6倍	1.4倍	270点	630点	



*総合点の同点者がいるために、90%、110%に当たる者を確定できない場合は、その同点者も含めた人数までを募集人員の90%、110%に相当する者とする。

高校入試における外部検定の活用

(1) 大阪府公立高等学校 入学者選抜における英語資格の活用

令和6年度 大阪府公立高等学校 入学者選抜実施要項に英語資格（外部検定）の活用について以下のように定められています。

学力検定「英語」において、外部機関が認証した英語力判定テスト（TOEFL iBT、IELTS 及び実用英語技能検定（英検）を対象とする。）のスコア等（以下「スコア等」という。）を活用する。活用に当たり、府教育委員会はスコア等に応じた読み替え率を定め、この読み替え率により換算した点数と英語の学力検査の点数を比較し、高い方の点数を当該受験者の英語の学力検査の成績とする。

英語資格（外部検定）を活用する志願者は、スコア等を証明する証明書の写しを、出願時に志願先高等学校長に提出する。その際、中学校長は証明書の写しが原本と相違ないことを証明すること。なお、オンライン出願システムにより出願する場合の提出方法等は別に示す。

英語資格（外部検定）の活用については、「基礎的問題」「標準的問題」「発展的問題」のすべての検査問題を対象とする。

〈読み替え率〉

TOEFL iBT	IELTS	実用英語技能検定	読み替え率
60点～120点	6.0～9.0	準1級・1級	100%
50点～59点	5.5	(対応無し)	90%
40点～49点	5.0	2級	80%

① 公立高等学校（一般入学者選抜全日製の課題）合格者の英語平均点(100点満点換算)

	英語 A	英語 B	英語 C
令和5年度	36.2	53.2	67.3
令和4年度	41.9	55.2	69.0
令和3年度	43.4	48.8	54.2

大阪府公立高等学校入学者選抜学力検査（一般入学者選抜全日製の課程）
における府立高等学校合格者の学力実態調査より

大阪府の公立高校受験では、英検2級以上の取得が有利！

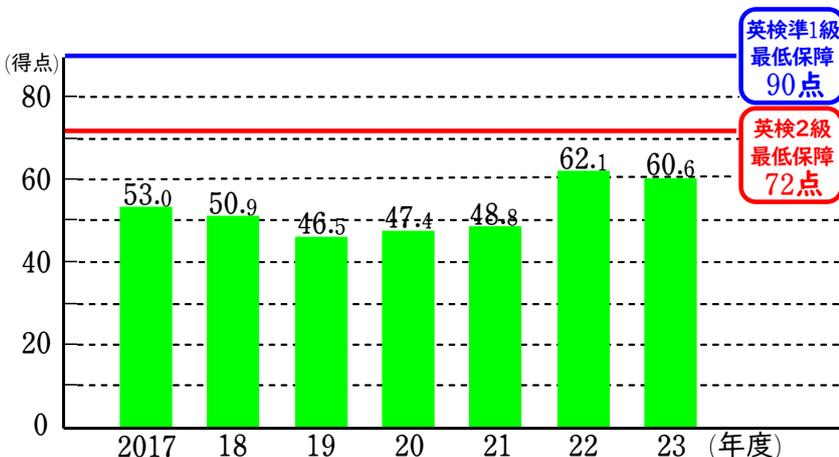
○英語 C 問題の合格者平均点より英検2級の保障点数の方が高い

○他の教科の勉強に集中することができる。

○外部検定を活用した受験者の割合が年々増加している。

※英検2級は高校卒業程度のレベル

② 過去の英語 C 問題の合格者平均点（90点満点換算）



③ 入試における英検 2 級の活用率

学科別	英検の活用人数	受験者数	活用している割合
文理学科	2851 人	4904 人	58.1%
普通科	727 人	23709 人	3.1%
国際文化	143 人	805 人	17.8%
グローバル	33 人	252 人	13.1%

文理学科
受験者の約 6 割
合格者の約 8 割
が英検を活用！

学科別「英語資格を活用している人数と生徒の割合」(令和 5 年度)より

(2) 大阪府の私立高等学校における外部検定優遇制度

大阪府の私立高等学校においても、外部検定の優遇制度が高校ごとに定められています。待遇や条件等は高校によってさまざまですが、「英検」「数検」「漢検」等の資格取得者に対して、点数の読み替えや加算制度があります。

例) 英検〇級以上を取得していると点数保障あり。当日の試験の点数と比較し、高い方を採用
 英検〇級以上を取得していると、受験時に点数加算
 英検〇級以上を取得していると、入学金免除
 ※優遇措置の内容や条件については、毎年同じではなく変更になる場合があります。

(3) 英検取得に向けて

無理なく計画的に英検を取得するのに、中学 1 年生で 3 級、2 年生で準 2 級、3 年生で 2 級を取得するのが理想です。英検の試験は年に 3 回行われるので、もし一発合格できなくても再度挑戦することで合格率を上げることができます。(詳細は英検の web ページを見てください)

また、現在中学 3 年生で、まだ一度も英検を受けたことがなかったとしても諦める必要はありません。英検は飛び級に関する制約がないので、4 級や 3 級を取得していなくても 2 級に挑戦することができます。ただし、経験がない分、合格のハードルは高くなるのでみっちり勉強してから臨むようにしましょう。

☆参考 2024 年度 検定料

単位：円 (税込み)

試験会場		1 級	準 1 級	2 級	準 2 級	3 級	4 級	5 級
一次試験	二次試験							
本会場	本会場	12,500	10,500	9,100	8,500	6,900	4,700	4,100
準会場	本会場			6,900	6,100	5,000	2,900	2,500